

<白金標準、中国第 15 次五ヵ年計画の需要拡大期待・・・>



(出所：オアシス)

7 月に CPI、PPI の発表でインフレの落ち着きを示し、FOMC では早期の利上げ確率は低下するなど、一時巻き戻しの動きを見せるも、米国とイランのホルムズ海峡に絡み停戦協議が破棄され、戦争激化における海峡閉鎖に伴う原油価格の上昇で、金利上昇のドル高傾向からドル建て貴金属価格は軟調な動きを見せている。特に NY 白金は、一時 1600 ドルを下回り、1565.6 ドルまで下値を模索している。しかし 1600 ドル以下の抵抗は強く、6 月 24 日以降は巻き戻しの動きを見せている。また中国で開催された「上海プラチナウィーク 2026」では、中国の第 15 次 5 年計画（2026 年～2030 年）に伴う PGM 需要拡大の大きな可能性が浮き彫りとなっている。特にポイントは「AI 関連のプラチナ需要による大幅な成長の見通しは、市場がようやく認識し始めたばかりの要素であり、重要なのは、これがまだプラチナの需給見通しに完全に織り込まれていないという点である」と発しており、WPIC の CEO も「現在のファンダメンタルズを踏まえると、プラチナの価値提案は依然として魅力的である」と述べている。そのため白金標準先物は、8000 円の攻防を続けながら、底固めから 9000 円へ向けて戻りを強めて来ると見え、売り込みは避けた方が良いと思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が維持し、**シグナル**は上昇している。RCI では**短期**が切り下げても、**長期**は切り上げている。特に指数平滑移動平均線のレンジが縮小しており、8100 円～8400 円のレンジ取引には注意した方が良いと思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,275,000 円(2026 年 7 月 21 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 7 月 21 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>